

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



玉造二軒茶屋

をやの思いをにをいかけ、

^{うちうち}
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一步前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

表紙のこぼれ

笠岡大教会初代・上原さとの生家は伊賀上野の西町に在る。そこから三百メートル程西が鍵屋の辻である。インターネットの「大和街道を歩く」の中に、次の文章がある。「鍵屋の辻」を過ぎて少し歩くと木津川にぶつかります。ここに「淀川廻行終点の地の碑」というのがありました。大阪から登ってきた船は、ここまで来たのでしょう。」又当時の上野から京阪神方面への物資運搬について、次のように記されている。「米や茶雑穀などは相楽郡大河原にあった舟場か、そこから四キロ程下流の笠置の舟問屋に運ばれる。道中の大和街道は険しい山道で、荷車さへ通れない峻険な山道」だった。

初代は二十歳で大阪・久宝寺町の金具問屋・折井家に「塩踏み」に出ている。行儀作法見習いの奉公を当時「塩踏み」と言った。初代はなかなか気丈で、大阪の某旅館に泊まって自分で口入れ屋(職業を世話する処)に行つて決めたという。この時の川合 豊(初代上原さとの結婚前の名前)の身許引受人が備佐・上原佐吉だった。初代の生家・「前清」と「備佐」は商売の取引上、以前から極く懇意で始終往來していたからである。

上野から大阪へ出るのに、上述の笠置越の難路と柳生を通過して奈良へ出る路がある。従つて初代は大阪へ向かうのに、荷運びの舟に乘せて貰つて笠置まで下つたのかも知れない。それから先は？木津から南都 奈良へ出て、暗峠越えで玉造への路であったか、あるいは木津川から淀川を経て天保山へ水路を辿つたか。いろいろ考えられる。どちらにしても当時二十歳の女性が独りで大阪へ出るのは、大変な事だったと思う。

ここに玉造・二軒茶屋の碑がある。大阪・環状線の玉造駅のすぐ傍である。すぐ傍といっても、そうと知って探す分には造作ないが、記憶は三十年前、見つけにくかった。二日がかりの史跡探訪の

一日目、五月四日午後、駅近辺始め東雲町の辺りを車で廻つて探して見つからず、夜、詰所のパソコンで検索して初めて場所が分かり、五日早朝現場に赴いた。

玉造・二軒茶屋……碑にはこう記されている。「この路の両側に明治中期まで、つる屋ます屋の二軒の茶屋があった。市中から暗越奈良街道を旅立つ人の多くは、ここで見送りと別れを惜しんだ」又碑の後に立つ説明文には、「この付近は、旧奈良街道への大阪側からの入り口で、街道の南北両側には、旅行者めあての茶店があり、俗に二軒茶屋と呼ばれて繁盛した。」とある。

初代会長は、もし陸路を通つたなら、この二軒茶屋で一服し大阪に入り、明治十九年、大阪に別れを告げ笠岡へ立つ一年をここで過ごした。

思えば明治三年から十九年、この十六年間は初代にとって有為転変の激動の時であった。その始まりと終わりがこの玉造・二軒茶屋という地名に関係があるのも、何

か興味深い。

明治十八年、備佐のあらかたの整理を終えて、佐助・さと夫妻は東区玉造東雲町一丁目五番七号の借家に移った。すでに佐吉・八重の老夫婦は、さとの長女・光、佐助の妹・イシと共に笠岡へ帰った。十八年六月下旬、降り続いた雨で大阪は空前の洪水に見舞われた。

この時、さと自身も洪水のさなか、陣痛を催した。さとと親神の名を一心に唱え洪水が引く迄しばらく出産を延ばして頂きたいと願った。不思議にも陣痛は治まり、無事その場を切り抜けた。後八月一日、末女・ふさ(後の摩耶分教会初代会長・川合梅太郎夫人)が誕生した。七月二十四日、洪水の引くのを待って、主人・佐助は、店員・椿卯之助を連れて東京の碓清水(備佐の取引先の東京での畳表問屋)を頼って上京した。こうした状況をさとは笠岡の佐吉への手紙で「木から落ちた猿」と表現している。

(史料部長 上原 繁 道)

縦の伝道 講習会

少年会笠岡団では、6月21日に少年会本部委員・井筒夏夫先生をお迎えして「縦の伝道講習会」を開催しました。井筒先生は、祭典講話として、自らの体験を通して、子育ての難しさと共に信仰の伝承の大切さを分かりやすく、ソフトな感じでお話くださいました。

また、最近の「こどもおぢばがえり」の傾向として、だんだんと小グループになってきている。それに伴い、育成会員が割合として増えてきているが、これは、家族そろっての参加が増えてきている証拠です。とお話くださいました。

子供達が一年の内で一番心身ともに成長する夏。笠岡団では、全教会からの帰参を心定めさせて頂いております。

育成にあたる私たち大人が、おぢばがえりの喜びをもって、仕込みのポイントを念頭において、三つの約束を実行する姿を子供達に写し、勇んで道の後継者育成の御用をつとめさせていただきます。

(少年会団長 中島 誠 治)

こかん様に 続く会

何ヶ月も前から練り上げてきた「こかん様に続く会」の日がやってきました。25日早朝、大教会を出発、夜にはおぢばの子たちも集まって賑やかになったところで、支部長様よりお話を聞かせて頂きました。まず、「おぢば帰りや教会参拝の大切さ、日々の生活の中で、自分から何かしら不自由させて頂く事で、感謝や喜びの心が身につくこと」ゆき、自分の人生を幸せと感じる心が出てくること」などお話し下さり、今回、仕事を休んだり、試験発表中にもかかわらず参加してくれた会員たちに、「皆は、この二日間という時間を、自分のやりたいことをお供えして、伏せ込んで参加してくれたネ」とお褒め下さいました。又、「お道の者は、日常生活の中で心を磨く努力をさせて頂く

里の仙人“であり、その中で女子青年というのは、同じ悩みを持つ同世代の女の子達が、ひながたをお手本にさせて頂きながら伏せ込ませて頂く場であり、自分の得た経験を人に伝えられるようになってほしい」とお話し下さいました。一時間半に亘って、「あれもこれも話してやりたい、どんなふうにしたら女子青年の子たちにわかる

(理解できる)だろう。支部長様の熱い親心が伝わってくるお話でした。

お話の後はお楽しみ行事です。委員の用意したゲームやおやつに、今までつながりのなかった会員たちが、ほんとうに楽しそうに和んでいる様子を見て、「よかったなあ、この子達がこれから一緒につながって行ってくれたら素晴らしいなあ」そんな思いでいっぱいになりました。



翌朝は、四時起床して教祖のおでましを参拝させて頂きました。おぢばに帰ればいつでも、ご存命の教祖にお会いできることを感じてほしいという支部長様の思いからです。続いて朝勤めを参拝し、一度詰所へ戻り、再び八時に月次祭参拝へ出発。神殿講話の終わるまで参拝させて頂きました。女子青年にはハードでは、と思っておりましたが、前夜の支部長様のお話が、皆の心に届いていたのでしよう、誰一人遅れることなく、きちんとつめてくれました。

おぢばの子達に別れを告げ一路笠岡へ。帰りのバスでは皆、トイレ休憩も気付かぬくらい、ぐっすり休ませて頂き、酔う者もなく、無事大教会へと帰らせて頂きました。

これで、一つの大切な行事を終えさせて頂いた訳ですが、担当者という立場を頂いて、まず我娘からと、いつも早くから声をかけて参加させてきた中だと思いますことは、お打ち出し頂いた行事に参加させる事で、親の届かぬところをお育て頂いているということです。親の四苦八苦しているステップを、親の理を戴いて、すんなりと飛び越えてゆく我がの子を見るにつけ、頼もしく、担当者という御用を与えて頂いてありがたかったなあ、と感謝しております。この秋には各教区主催で女子青年大会が開催されます。テーマ「あふれるご守護に感謝して 笑顔で喜び伝えよう」が日々

実践できるよう、与えて頂いた目標に向かって、親子共々、努力させて頂こうと思います。

最後になりましたが、安全運転で、しかも予定より早く私たちを運んで下さった今川昌彦先生、詰所やお弁当などでお世話になった皆様、大勢の会員を参加させて頂きました親々の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(婦人会女子青年担当者 枝 廣 陽 子)



ぶどうのようなまあるい心

六月二十五日、二十六日に『こかん様に続く会』を開催させて頂きました。今回は今年の秋に開催される女子青年大会の理づくりとして、おぢばがえりをさせて頂きました。しかし土日ということでも団参を組んでいたりと、テストが近かったり、案内してもなかなか良い返事をもらえないこともありました。以前から女子青年の行事によく参加してくれていた会員さんも不参加、委員の中でも仕事の都合がつかず、不参加の人が続出して、こんな状態でちゃんとおぢばがえりできるのか不安になってしまふこともありました。でも今まで行事を開催できて、参加してくれた会員さんに対して、どこかで「来てくれてあたり前」という気持ちがあったと思います。その人たちが参加してくれたのは、あたり前ではなく、今までの委員さん達がしっかりとつないでくれていたからなんだ。と気づかせて頂くことができました。人が集まってくれることがどれだけありがたいか、今回の『こかん様に続く会』でたくさん感じることができました。そして参加してくれた会員さん達に、心から「来てくれてありがとう。」と言うことができました。

支部長様は今回のお話で「不自由をしなさい。」と教えて下さいました。もし、この度すんなり會員さんが集まってくれていたら、きっと今回感じた不安やあせり、そして喜びや感謝の気持ちはいわうことができなかつたと思います。それに、何とか都合をつけて来て下さった會員さん達や、一緒にがんばってくれた委員さん達とは、以前よりさらに友達の輪、委員同志の絆を深めることができたと思います。これは何ものにも代えられない神様からのごほうびだと思います。

今回女子青年では新しく旗を作らせて頂きました。表には、大きくK A S A O K Aと女子青年の文字、裏にははぎれで作ったぶどうが縫ってあります。はぎれで作ったので全部少しづつ違いますが、どれもまあるかかわいらしく真ん中の芯によりそっています。これから私たち女子青年一人一人が、まあるいやさしい心で女子青年の大切さ、楽しさを一人でも多くの人に伝えていけたらいいな。と頑張って作りました。そして秋の女子青年大会にはこの旗を持って、たくさんの方々と参加したいと思っています。

最後に、この会を開催するにあたり、参加して下さいました會員さん、協力して下さいましたみなさん、温かい親心をかけて下さった支部長様、そして奥様方、本当にありがとうございます。

(女子青年委員長 三島 知佳子)



心ひとつに

甲井分教会 山田睦浩

今回の実修会で初めて山陰地方に行かせてもらう事になり、思いおこせば十数年前、青年会のキヤラバン隊で島根部内の3カ所をまわらしてもらって以来の山陰地方、一週間前の6月12日、妻と子供をのせてとりあえず、松江に一番近い所までいった。実修会の内容よりまず地理的な事が最優先でした。そして6月19日出雲川津の会長様との事前の打ち合わせで、とりあえずJR松江駅まで来て下さいとの事。意気揚々と出発したのであります。

54号線から9号線にでて美しい宍道湖の見えるコンビニの駐車場で愛妻弁当を食べて少し時間も早かったが松江駅を標識どおり行っていったつもりだったが迷ってしまい仕方なく、来た道を帰り道路沿いより会長様に電話、ほどなくして会長様がさっそうとおいで下さり、そしてなんとか無事に教会に到着。すでに数人の方が参拝場におられた。

会長様と軽く打ち合わせをすませて1時30分より実修会開始、最初30分〜40分話をしたらいいかなと思ひ、ふと気がついて時計を見ると1時間以上しゃべりっぱなし、みなさんが真剣に私のさやかな体験談に耳を傾けて下さり時間がものすごくすぎました。

今回はみなさんベテランの方ばかりで、行かしてもらった私が一番下という中、ねりあい質疑応答という形にさしてもらい、とても活発な意見がとびかい、なるほど、こちらの教会は、会長さんを芯にみなさんが心をよせ心をそろえておられるのだとつくづく思わせて頂きました。終了予定の時間が近づいても、アツイ意見がとびかい、これこそまさに実修会のあるべき姿なのだと感じました次第であります。そしてまたの再会を約束して、帰路の途につく前に近くの、亀田山、天場山の両教会に案内して下さい参拝させて頂き、9号線に入る所まで会長様に先導して頂き、無事帰らして頂きました。

過去何回も要員として、とどかぬながらつとめさせて頂き、いよいよ教祖120年祭仕上げの年の実修会にしてようやく私なりに収穫の多い実修会になりました。秋にはいよいよ最後?の実修会。今回にもまして収穫の多い、みよりの秋にしたいと思う次第であります。出雲川津の皆様方、本当にありがとうございます。

談話室



出 会 い

高屋分教会 小川 道子

三ヶ月ほど前、講社祭の講話で会長様が「人の出会い」についてお話くださいました。「人の出会いには偶然と言うものはなく、必然である。それは、銘々が望んだからといって会えるものでもないし、その人にふさわしい人と神様がめぐり合わせてくださる。」と言う事であったかと思えます。

実は、そのお話を聴く少し前私は、退職してから一年今日まで、今までにない多くの人々にお会いできたなあと、振り返っていたところでした。今までも仕事で人に接する機会も多々ありました。しかし、退職後初めてお会いした方々からは、これからの行き方を模索していた私に新鮮な刺激、やる気をいただきました。

会長様のお話を聴きながら「そういうことだったんだ、有り難いことだ」と思わずなぞが解けたような気持ちになりました。

五月末、岡山シンフォニーホールでの村上和雄先生の「笑いは遺伝子のスイッチをオンにする」の講演会のお話の中にも「巡り会いは、偶然でなく神さまのおはたらき：時、所、タイミング」と言う件があり、科学の世界で生きておられる先生のお話の中にも神様の存在があり、出会うこと出会うことのすばらしさを知り、そのお話に感銘しました。

六月末、三十年前おちばと一緒に働かせていただいていた婦長さんの喜寿の祝いをするからとのお誘いを受けおちばに帰らせていただきました。憩いの家創設当時の話に花が咲き、当時の諸姉輩方の苦勞を知りました。看護用木がなんたるものかも知らない私たち若輩者を導いてくださり、本当に親のような気持ちでお連れ通り頂き、その御苦勞の中に我々の今日があるのだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

母の信仰により、十五歳の時からおちばに引き寄せていただきました。以来、数知れない多くの方々との出会いのすべてが神様のおはからい、おあたえであったのだと考えられます。

人との出会いには色々あります。ありがたい出会いばかりではないこともあります。そんな時は、おやさまのお言葉「砥石の心で、相手が自分を磨いてくださる。」を思い出し、時には神様のお試しもあるのではと思ひ通らせて頂きたいと考

えております。
よいお与えを
頂く時には、ちよ
うどよい器でタ
イミングよく受
け取れる自分で
ありたいと願っ
ております。

ちょっと欲張り
でしょうか。そ
のうつつ作りを
どうするかがこ
れからの私の課
題ですが。

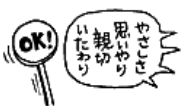
ともあれ、出
会いを求めて外
へ出て行く事が
先決のようです
ね。おにをいが
け、おたすけ、
お仕事に「出会
いを大切に」そ
れぞれの持ち場、
立場で通らせて
頂きましょう。

【3】強情な人だと決めつける前に

私たちは往々にして、自分の言葉を、そのまま聞いてくれる人を素直な人だと思い、そうでない人を強情な人だと思いたがるものです。素直な人だ、強情な人だ、ものわがりのいい人だ、悪い人だと、他人を決めつける、その前に、ちょっと忘れていないでしょうか。自分の話す内容を相手に得心してもらえただけの努力を、果たしてどれだけ重ねたかどうか、ということ。こちらの意見を相手に押し付けるより前に、相手の立場に立った配慮はいくらしても、しすぎることはないでしょう。

(天理教ホームページより)

<http://www.tenrikyo.or.jp/ja/top.html>



モスクワ サンクトペテルブルグ 演奏会に参加して⑥



善久岡本教会大

演奏会全てを
了え、今日一日
をモスクワ市内
観光に当てる。
昨夜の余韻を残
しつつ、ホテル
食堂で、黒パン
の朝食を済ませ
薄暗いなか目を
凝らすと窓の外

は、生憎の雨模様である。雨具を用意して専用バスに乗る。モスクワの街も蛇行するモスクワ川に沿って出来た街で、中世、大量の物資の輸送を船に頼る時代、河を中心として町が出来栄するのである。ヨーロッパの主要都市全て同様である。バスはクレムリン宮殿に向う。クレムリンは、一七〇三年まで帝政ロシアの王朝府であり、ロシア革命以後は、ソビエト連邦共和国最高会議場として用いられ、ソ連政権の代名詞となった建造物である。その前に広がる赤の広場もモスクワ一の観光名所である。広場の前に着く。新聞、テレビ等で見ると、北京の天安門広場と、赤の広場を同じように想像していたが、広場に立つと、そこはなだらかな丘の上である。クレムリンが城壁に囲まれた堅固な城跡であることに気付く。南を悠々と流れた流れのモスクワ川が蛇行する。その岸辺に高

い石垣を礎きその上に立つ城である。ちょうど南のモスクワ川に沿った城壁を底辺とした三角形を思い浮べて頂き、左に公園(アレクサンドロフ公園)モスクワ大学が立地する。三角形の中がクレムリン宮殿、大統領官邸、兵器庫、イワノスカヤ広場、教会等が置かれて在る。広大な敷地を有する城域である。冬へ向う季節、風雨の中、頭に当てる雨が痛く感ずる。又茶色の軍服の色に似た服を着た小太のロシア人の女性が両頬を真赤にして、抑揚のない片言の日本語で案内して下さる。傘を持ち襟を立てて広大な敷地を建物から建物へと歩く。足の悪い私には大変な行である。一番にレーニンの遺体の安置されたレーニン廟に、市民の人々と一緒に並び、数人ずつ間隔を開けて入場。ロシア革命時、多くの人々の精神的支柱であったレーニンの遺体は、部屋の中央の台の上に、立派な柩に納められ、ロウ人形の如く天井を向いて休んで居られる。柩の両側に衛兵二人が儀仗の銃を持って立つ。我々は「立止まらないうよう」と云う注意を受け



柩の囲りを一周する。休みでもないのに、多くの国民が切れることなく訪れ参拝している。一度レーニン全集を読んでみたくなる。屋外は相当に冷え込む。両手を温めつゝ、三時間余り見学、赤の広場の横で待つバスに帰る。暖房の弱いバスでもシートに座ると、ホットして一息も二息もさせてくれる。ロシアの人々は、もっと厳しい寒さの中五ヶ月も過ごすのかと思うと……。日本は四季があつて過し易い国だと思つるのは私達であつて、その国々でそれ々の文化を創り出し、それ々に楽しみを持つて生活を営む。衣服、住居、食事、皆異なる。近年のグローバル化は、それも無くしてしまふのであろうか。そうこうしながらバスは東京で云えば、銀座か六本木に比されるアルバート通りに到着し、見学と買物をする。夕刻、雨上りに映えるネオンが、エキゾチックである。広いストリートは両側に商店が並び、中央道路は歩行者天国となり、道路中央に、みやげ物を売る露店が立つ。ロシアの民芸品、絵画、

食品、衣類、軍服、バッチ、何んでも有る。豊富な品揃えで、値切ると安くなる。行き交う人々が肩が触れ合う様に多い。中には、時代に取り残された老夫婦が、物乞いをしている。社会体制の急激な変化は、こういった人々をも生むことになる。数は少ない。一時間半位散策し、ホテルに帰り、夕食を頂く。その後は、各部屋に集い、最後の夜を談笑に、ウツカ、ビール、ウイスキーと皆持ち寄る。相棒の杉島氏は、若い人々を相手に楽談義に花を咲かせて杯を重ねている。病持ちの私は、早めに退散する。

十一月一日、ロシア滞在最後の日、私は、常の通りに目を醒まし、昨晚のアルコールに爆睡中の相棒を横目に、邪魔にならないように、静かに帰国の準備をする。整理すること一時間余り、昨夜の疲れを全身に残した老友も起床する。団体の荷物、自分の荷物を助けあって、完了し、ホテル「ミンスク」最後の黒パンを食べに、ホテルレストランに向かう。流石に、昨夜の疲れで欠ける人が何人も居る。薄明りの中、窓に頭をつけるとう天気は良さそう。今日は午後三時まで自由行



動となり、数人ずつグループとなり、希望する所に出掛けることとなる。我々年配グループ四人。十時頃ホテル出発、歩いて昨夜のアルバート通りに向かう。地図を頼りに、道路巾の広いことに感心、更に道路端は、二十五巾の緑樹帯が、中央道路に添って続く。我々は公園の様な葉を落した緑樹帯の中、疲れるとベンチに腰を下して休みながら、歩くこと、一時間半、目的地に到着。昼間の通りは人も少なく、露店の数も早いで少々少ない。しかし暗くて見えなかった看板が昼間は目に入る。心配した昼食も、日本人向けの看板が有る。日本、インド、中国料理、更ににぎり寿しの店まである。買物を済まし、行列の出来る店、満員のハンバーガーショップ、マクドナルドに入り、ビッグマックとスープを注文し、昼食とする。周囲はロシア人で溢れんばかりである。今ロシアで一番人気なのが、ファーストフードの店と聞く。斯して、ロシアの食文化も変わり行くであろう。遅い昼食を済まして、又歩く。緑樹帯のない通りは、輔道

道を歩く。急速に増加した

自家用の車が、輔道に駐車して歩きにくい。日本車とドイツ車が目に付く。主流は外国車の様である。今后急いで駐車場が作られることだろう。午後四時、曾山先生関係者の見送りを頂いて、ホテルを出発し、二時間、陽の落ちたモスクワ空港に到着。入国時と異り、団体荷物もあまり手間取ることなく通関することが出来、機内のシートに落ちつきモスクワの街の灯火が小さくなる頃には、眠りに落ちる。

楽しい一週間であった。参加各人が、曾山先生の意を体し、行動する。雅楽の好きな人々であったことが、質の高い演奏会を創出、思出深い日々を作ったと思える。以来半年、曾山先生は、五月には、日本のロシア向けの紹介映画制作スタッフ四名を迎え、おぢば案内されたことが、時報に記載されており、太田君は、今年NHK大河ドラマ「源義経」の古典(雅楽を含む)音楽を担当するスタッフとして大変多忙と聞く。若手の岩佐、住田両氏も各地演奏会にはリーダーとして出演していると聞く。

演奏会が人を育て、育った人々が、レベルの高い演奏会を創ってゆく。頼もしい限りである。若人の先途を祈り、読んで下さり、声を掛けて下さった方々を始め、関係諸氏にお礼申し上げさせて頂き、筆を置かせて頂きます。(終)

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌七月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「一会」、選五十四句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

準秀詠 東悠分教会長夫人 田林 美智子

会釈する老女の一言つと重し

佳詠 油木分教会長 黒瀬 修次

幼子と老も忘れるお泊り会

▼病喜録

東濱 十三雄

あじさいが息をひそめて濡れている

なぜに大きな息が出来ぬか

此の季節 葉の箱に手が伸びる

速く効いては さんげ出来ぬに

いたらない 我を支えし 人達の

幸せ 祈る 梅雨の晴間に

▼鶴山百十周年記念祭の詩

詩かくしん

岡山の津山鶴山百十年

笠岡の道つたえはげまん

鶴山も百十年を迎えたり

いさめやいさめ笠岡の道

笠岡の長老となり前会長

鶴山の道末はたのもし

笠岡の理にながりてたすけられ

親を思うてはこぶにちにち

笠岡の道ありてこそ鶴山の

道につながる友よ楽しく

◆修養科修了者の集い

【期 日】 8月21日(日) 午前9時(受付)

【場 所】 笠岡大教会

【内 容】 月次祭参拝。永尾隆徳先生(修養科主任)の講話、修養科修了者の感話等
*尚昼食は弁当、飲物コーナーを用意しております。

◆青年会 布教推進週間 決起の集い

布教推進週間に向け、又、120年祭仕上げのこの時期、青年会員OBの方、普段は共に活動できにくい状況ではありますが、あらかとりの熱い心を持ち寄り、大教会近辺に神名を流しましょう。

【期 日】 8月21日(日) 修養科修了者の集い終了後

【集合場所】 ピロティー前の芝生

【内 容】 大教会より大門方面への神名流し(約1時間)

【対 象】 青年会員、青年会OBの方。(婦人会、少年会の方もどうぞ御参加下さい)

【服 装】 暑い季節でありますので、帽子、タオルの用意をお願いします。

◆英語講習会

【期 間】 8月22日(月) 午前10時受付～24日(水) 午後2時ごろ解散

【受講対象】 中学1年生以上～高校、大学、一般

【受講御供】 2500円

【持 参 品】 英和・和英辞典、筆記具、着替え、洗面具

【プログラム】 少人数グループでの英会話、パソコンを使った英語学習、おつとめ、講話、ひのきしん、社会見学など

【お問合せ】 詳細は、スタッフの香取雅人(086-528-0850)、吉岡誠一郎(086-282-0550)
(御連絡下されば、JR大門駅まで送迎いたします)

◆少年会 夏季練成会 (サマーキャンプ)

- 【と き】 8月22日(月)～8月24日(水)
 【と ころ】 海辺のキャンプ場
 【内 容】 水泳、テント張り、料理コンテスト、野外ゲーム他
 【対 象】 小学校3年生～中学校3年生、高校生はスタッフとして参加
 【定 員】 50名
 【参加お供】 3,000円(米2合と野菜1品)
 【申し込み】 8月18日までに、各ブロックの委員に申し込んで下さい。

◆にをいがけ・おたすけ実修会要員研修会

- 【期 日】 期 日 8月28日(日)
 【場 所】 場 所 笠岡大教会
 【対 象】 対 象 実修会要員

◆「KASAKA」ぜったい友だち フェスティバル

- 【と き】 8月28日(日) 午後2:30 集合 3:00 開会
 ・第一部 児童劇「ぜったい友だち」…………… 場所:講堂
 夕食、おつとめ
 ・第二部 「ぜったい友だち」ファイアー …… 場所:広場(8:45 終了)
 【出 演】 天理高校 幼少年指導班
 【主 催】 笠岡大教会
 【参加御供】 一人200円(食事をする人)

◆青年会 全分会 布教推進週間

- 【期 間】 8月28日(日)～9月4日(日)
 *例年通り全分会にて布教推進の活動を計画していただきたいと存じます。120年祭仕上げの期間という事もあり、より一層、実動をもって歩ませていただきますよう。
 尚、ブロック行事、キャラバン隊の活動内容は、後日各教会へ配布させていただきます。
 *詳細については、下記担当者にお尋ね下さい。
- | | | |
|---------|--------------|---------|
| 平 盛 尚 樹 | 084-963-1278 | (福昭分教会) |
| 山田睦浩・英嗣 | 08472-2-0254 | (甲井分教会) |
| 高 島 伸 雄 | 0854-43-3705 | (出雲分教会) |

◆第24回女子青年大会

- 【テ ー マ】 あふれる御守護に感謝して 笑顔で喜び伝えよう
 【主 催】 婦人会本部
 【内 容】 ・ビデオ上映
 ・式典(婦人会長様からのメッセージ、他)
 ・記念講演
 【対 象】 女子青年
 【参加御供】 500円

*日時・会場は、別掲一覧表を参照願います。
 ひとりでも多くの参加をお待ちしております

◆各行事に参加ご希望の方は、
 各ブロックの担当者にお申し込みください

第24回女子青年大会 開催会場一覧表(国内)

県名	月日	開催時間	会場名	所在地
奈良	9/4 11/3	10:00 10:00	第2・第3食堂	天理市三島町
京都	10/30	10:30	河原町大教会	京都市左京区東丸太町1-1
三重	10/9	10:00	松阪大教会	松阪市大黒田町1861
大阪	10/30 11/13	10:00 10:00	大阪教務支庁	大阪市天王寺区小宮町9-18
兵庫	10/9	13:00 16:30	神戸新聞松方ホール	神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸情報文化ビル4階
滋賀	10/30	10:30	中野大教会	東近江市妙法寺町770
和歌山	10/30	10:00	中紀大教会	田辺市天神崎30-1
静岡	10/30	11:00	山名大教会	袋井市三門町7-1
愛知	9/25	11:00	つるまいプラザ(愛知県勤労会館)	名古屋市昭和区鶴舞1-2-32
岐阜	10/30	10:30	岐美大教会	岐阜市長良福光2675-31
山梨	11/3	10:00	山梨教務支庁	甲府市宝2丁目9-26
長野	10/30	10:00	桔梗ヶ原分教会	塩尻市丘郷原1800-1
徳島	10/30	10:00	撫養大教会	鳴門市撫養町木津461
高知	10/30	10:00	高知大教会	高知市追手筋2-3-22
愛媛	10/30	10:00	愛媛教務支庁	松山市石手5-8-27
香川	10/2	10:00	高松大教会	高松市西春日町1516
東京	10/30	11:00 18:00	東中央大教会	東京都区渋谷区神宮前5-14-2
千葉	11/3	10:30	千葉教務支庁	千葉市稲毛区稲丘町5-15
埼玉	11/3	10:00	埼玉教務支庁	さいたま市北区東大成町1-654
群馬	10/30	10:30	群馬教務支庁	前橋市下石倉町20-9
栃木	9/19	10:30	栃木教務支庁	宇都宮市平出町3776-12
神奈川	10/30	10:00 15:00	神奈川教務支庁	横浜市西区北幸1-4-1 横浜天理教館12階
茨城	11/3	10:30	茨城教務支庁	水戸市平須町表原1-181
福井	10/30	10:00	越乃國大教会	敦賀市三島町2丁目4-34
石川	11/3	10:30	石川教務支庁	金沢市長土堀1-18-22
富山	10/1	10:30	富山教務支庁	富山市千原崎1-6-30
新潟	10/1	10:00	新潟大教会	新潟市小針大通2-1-41
岡山	10/30	10:30	ピュアリティまきび	岡山市下石井2-6-41
広島	10/2	13:00	広島教務支庁	広島市中区東白島町12-11
鳥取	10/30	10:00	東陰分教会(鳥取教務支庁)	倉吉市新田356
山口	10/30	10:00	防府大教会	防府市桑山1-2-31
島根	10/30	10:00	雲陽分教会(島根教務支庁)	出雲市今市町42-19
大分	10/30	10:30	安東分教会	別府市上田の湯町14-6
福岡	10/2	13:00	宗像クリニック	宗像市久原400
長崎	10/30	10:30	長崎教務支庁	諫早市若葉町420
鹿児島	9/4	13:00	鹿児島教務支庁	鹿児島市紫原1-58-5
熊本	10/30	10:00	熊本教務支庁	熊本市水前寺公園2-30
宮崎	10/30	10:00	宮崎分教会	宮崎市池内町西ノ園1056-1
佐賀	10/30	10:30	東松浦分教会(佐賀教務支庁)	佐賀市川原町2-33
沖縄	10/30	13:00	那覇分教会(沖縄教務支庁)	那覇市辻2-9-19
北海道	10/30	10:30	ロイトン札幌	札幌市中央区北1条西11丁目
福島	10/30	10:00	福島教務支庁	福島市新浜町7-26
宮城	11/19	11:00	宮城教務支庁	仙台市青葉区台原6-7-8
山形	10/30	10:00	山形教務支庁	天童市桜町11-1
岩手	10/16	10:00	岩手教務支庁	盛岡市馬場町3-40
青森	10/30	10:00	青森教務支庁	青森市西滝2-12-1
秋田	10/2	10:00	秋田教務支庁	秋田市東通観音前11-8



第 7 7 3 期 修 養 科 募 集 要 項

*** 修養科期間**

立教168年9月1日～11月27日

*** 教 養 掛**

- 3ヶ月間 岡 崎 真 一 (大教会役員)
- 1ヶ月目 吉 岡 貞 彦 (芦田川分教会長)
- 2ヶ月目 森 本 忠 善 (海松ヶ岡分教会長)
- 3ヶ月目 三 島 順 教 (葦 沼 分教会長)

*** 募集要項**

- ・ 志願者は、9月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 8月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、11月29日の昼食後に解散。

*** 教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

*** 参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

*** 携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

*** 服 装**

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・ 願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・ おさづけの理拝戴願の順序参拝も合わせて行なう。
本 部 御供		○	・ 「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・ 「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		・ 願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・ 御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・ 「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。



六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます
親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護とお導きを頂いて日々は結構に恙なくお連れ通り頂いて
おります事は誠に有難く勿体ない極みでございます。しかしながら世の中には親神様の御守護と分らない
いまでも自分達の力ではなく大きな御恵みに浴して生きていますと感ずつてもそれにどう応えていいか分か
らず結局は目先の欲に心奪われ御恩報じどころか恩に恩を重ねて心の徳を失っている人が多くいます事は
残念でなりません。私共は日々朝夕に御礼申し上げ自らの心の埃を掃除しつつ少しでも親心に触れ御恩報
じの道歩んで頂きたいものと未だ道知らない多くの人々にをいかけ、おたすけを通してたすけ一条
の上に邁進させて頂いております。その中にも今日の吉日はこれの笠岡にお許し下さいました御祭日でご
ざいますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつと
めて六月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には遠近は元より梅雨時の蒸し暑さをも厭わず寄り集い
ました道の子供達が相共にお歌を唱和し同じ思いに伏し拝む状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さ
いますようお願い申し上げます。

さて教祖百二十年祭に向けての成人の歩みを仕上げの年にふさわしいものにすべく一日一日を大切によ
ふぼく各々が初席者一名の御守護を目指してたすけ一条の上に励ませて頂いて早や半年が過ぎようとして
おります。この旬に改めて半年を振り返ると共に年頭の心定めを思い返し年祭に向けての成人の思いをよ
り一層強くしもうすでに初席者を御守護頂いた者も未だ御守護頂いてない者も年祭を迎えるその日まで常
に初席者一名を目指してたすけ一条の上に歩み切る覚悟でございます。又本日は後に続く道の子の育成を
推進すべく縦の伝道講習会を開催させて頂きよふぼく家庭の子弟育成に役立てると共に来月行われる子供
おちば帰り募集の上に拍車をかけさせて頂く所存でございます。

何卒親神様には心の混迷を深める世の中にあつて常に神一条に通る皆の誠真実の心をお受け取り下さい
ましてたすけ一条の上に更なる自由の御守護を賜り次々とこの道に真実の人をお引き寄せ下さいまして多
くの人々で賑わうおちばの姿を御守護頂きますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

・原・稿・募・集・

内 容

- ①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先

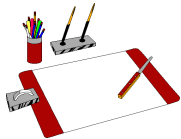
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

F A X：0865-66-1314

メール：tenkasa@kcv.ne.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



実践項目集計 (5月)

百万軒にをいがけ	54,743軒
おさづけのお取次	4,368回
身上事情お願い	663件

人づくり集計 (上半期)

初 席	110名
(教会散)	64ヶ所
おさづけの理拝戴	32名
修養科修了	11名
検定講習前期修了	8名
検定講習後期修了	2名

大教会だより

◎教会長資格検定講習会修了者

後期 立教168年6月19日終講
稲倉 廣田 真也

◎本部食堂ひのきしん

自 立教168年7月16日
至 立教168年7月31日
福 山 福田 恵司

名言 & 佳言

「おかえり。今日も暑いの——」

「うん。ただいま」

「気をつけて帰れよ。早う宿題せーよ」

「うん、バイバイ」

「○○ちゃん、先生に言うよ。帰る

時、知らん人と話しちゃーいけん言

うちゃったろー」

「ええんじゃ、ここのお寺のおっちゃ

んは」

「……………」

ある日の教会前での会話である。

これまで教会前は道路とは名ばかりで、草に覆われ自転車

がやっと通れる程の畦

道だった。昨年、市の

下水道工事が行われた

のを機に舗装され、防

犯灯も設置されて立派

な道路に生まれ変わ

り、小学生の通学路にも

指定された。

夕方、下校中の小学生に神殿掃除

はなかるうか。

をしながらく声をかける。数人の

子とは顔見知り、先の会話主もそ

の一人だ。お寺のおっちゃんとは変

な気もするが、安全な人間として彼

は認めていてくれるのだろう。先生

の教えを忠実に実行した女の子には

少々気の毒だが。「某小学校区で防

犯パトロール隊の設立総会が行わ

れ、席上、隊長が「あいさつ運動を

通じ地域の子供は地域で守る様、努

力しよう」と呼びかけた」と先日、

新聞が報じていた。

確かにその通りだが、低年齢層を

狙った犯罪が多発しているのが現状

で、知らない人と話をしないという

のも犯罪にあわない手段の一つかも

しれない。

「(こども110番パトロール中」のス

テッカーを貼った郵便配達車、タク

シー、PTA、育成会有志の車が走

り回っている。我町もどうとうこ

まできたか。悲しい限りだ。

人間として、親として、育成者として

しての日々の在り方、考え方、人間

関係の大切さを問われている今日で

はなかるうか。

(よ)

